

尾張北部環境組合 第4回ごみ処理方式検討委員会 要旨

開催日時	平成30年11月16日 13:00~14:10	
開催場所	江南市役所 第3委員会室	
出席者	委員	<p>◎：委員長、○：委員長職務代理者</p> <p>公益社団法人 日本技術士会 中部本部 愛知県支部 専門員 伊藤 浩 委員</p> <p>岐阜薬科大学長 ◎稲垣 隆司 委員</p> <p>名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 小林 敬幸 委員</p> <p>中部大学 工学部 教授 ○二宮 善彦 委員</p> <p>公益社団法人 全国都市清掃会議 技術部長 濱田 雅巳 委員</p>
	事務局	<p>尾張北部環境組合 武馬事務局長、日比野主幹、北川主査、後藤主事</p> <p>株式会社エックス都市研究所 中石、鈴木、村上、尾崎</p>
傍聴者	なし（非公開）	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回ごみ処理方式検討委員会会議録 ・第4回ごみ処理方式検討委員会説明資料 ・ごみ処理方式検討委員会報告書（素案） 	
会議内容	<p>1. 委員長あいさつ</p> <p>2. 第3回ごみ処理方式検討委員会会議録について 内容について了承された。</p> <p>3. 議事 (1) ごみ処理方式検討委員会報告書の素案について 第4回ごみ処理方式検討委員会説明資料（第3回ごみ処理方式検討委員会での検討を踏まえ、第3回ごみ処理方式検討委員会説明資料を基に修正したもの。以下、「説明資料」という。）に基づき事務局から説明した後、ごみ処理方式検討委員会報告書（以下、「検討委員会報告書」という。）の素案について事務局から説明を行った。</p> <p>【まとめ】 各処理方式の評価のうち、温室効果ガス発生量については外部資源化に係る量</p>	

	<p>も含めて評価しているのに対して、電力使用量や燃料使用量は外部資源化に係る量が含まれていないため取扱いを統一する必要がある。外部資源化に関する数値が示せるものは記載し、示せないものはその旨を補足する。</p> <p>(2) その他</p> <p>検討委員会報告書の素案の修正については、ごみ処理方式検討委員会は開催せずに、事務局から各委員へのメールにより確認を行い、意見を取りまとめたうえで、検討委員会報告書とする。</p> <p>第4回ごみ処理方式検討委員会の会議録の承認についても同様の取扱いとする。</p>
<p>発言（意見）内容</p>	<p>別紙のとおり</p>

別紙

発言（意見）内容

（1）ごみ処理方式検討委員会報告書の素案について

<第4回 説明資料について>

（伊藤委員） p 18 で提示された環境保全性は、「ばいじん」の排出量と他の案件での濃度希釈倍率を用いて最大着地濃度を求めて評価しているが、濃度は大気の安定度や他の設定条件で変化するし、今後の環境影響評価で評価を実施する内容であると思われる。環境保全性の評価は、いずれの処理方式でも設定した公害防止基準を満足していることを記載すれば十分ではないか。

（濱田委員） 報告書に記載するかは別として、検証したことが残っていればよいのではないか。

（委員長） 大気質への影響は地形条件や気象条件により変わってくるので、別地域のものを参考にするのは適当ではない。p 18 の検討結果は掲載せずに、報告書では簡単に整理することとする。

（濱田委員） p 24 の売電等収入はガス化熔融炉シャフト式が一番少ないのに対し、p 21 の売電可能電力量が一番大きい。理由があるのであれば、補足説明が必要であるので、精査されたい。p 26 の運転管理の容易性について、前回、出滓作業が難しいと申し上げたが、正確には間欠出滓の場合の作業が難しいということである。シャフト式は連続と間欠の両方があるが、流動床式はほぼ連続出滓である。いずれにしてもストーカ式と比較した場合に、トラブル時の対応の容易性では差があるので、正確に表現すべきである。

p 26 の評価の運転管理で留意すべき点とは出滓作業のことを指しているのか

（事務局） そのとおりである。

（濱田委員） 先ほどの話に戻るが、p 27 の表記ではシャフト式の発電能力が高いとの誤解を与えかねない。シャフト式には外部燃料としてコークスも投入されているため、補足説明が必要である。

電力使用量及び燃料使用量について、ストーカ式の評価には灰の外部資源化の評価が入っていないことを補足すべきである。また、シャフト式と流動床式も飛灰の外部資源化の評価が入っていないので、その点の補足が必要である。数値が示せる場合は、反映したほうがよい。

（二宮委員） どこかで例えばシャフト式はコークスを使用するといったユーティリティーに関する評価・記載が必要ではないか。

（委員長） 運転管理の項目中で記載するとよい。

（小林委員） p 27 で評価では○、△と差があって、総合評価は差がないという結論に違和感がある。評価の欄に、ストーカ式に対する比較であることのコメントが必要と感じる。

（濱田委員） ストーカ式の外部委託の数値が入らないと純粋な比較が出来ない。条件付である評価にな

っていることを記載しないといけない。

(委員長) 評価でストーカ式には外部委託分が入っていないのであれば、そのことについての補足が必要である。

(濱田委員) 何かしら参考値があれば出典を示し、評価すればよい。数値が入っていなければ補足が必要となる。

(委員長) それを踏まえて総合評価の表記を再考することとする。

(伊藤委員) p 27 の総合評価は、表を分割して表示した方が見やすい。

(濱田委員) p 7 の単価については、乾式飛灰であることを示さないといけない。

(二宮委員) おそらく、外部資源化も含めて全体で評価すれば処理方式における差がなくなることになると思われる。正確な評価が出来ないのであれば、各項目も○△は付けない方がよいのではないか。

(委員長) 外部資源化の評価が入っていないものは補足し、その場合は評価を行わないほうがよい。出滓は特殊作業ではないのか。評価の表記に違和感がある。

(事務局) 間欠出滓は特殊作業であるが、メーカーからの回答はいずれも特殊作業なしとの回答であったため、このような表記としている。また、シャフト式についてプラントメーカーからの回答は改良型で提案されており、図面を見る限り連続出滓となっている。

<検討委員会報告書（素案）について>

(委員長) p 16～18 は説明資料での指摘を踏まえ修正するのか。

(事務局) 説明資料での指摘を踏まえ修正する。

(小林委員) p 9 の灰の外部資源化の優位性はなくてよいのではないか。

(濱田委員) 灰溶融に関しては、ストーカ式+灰溶融炉として整備することを否定している。しかし、溶融も含めた外部での資源化は認めている。その理由は示したほうがよいが、回答数は不要である。記載内容は再考して整理するとよいのではないか。

(委員長) 表現を変えて整理することとする。

(二宮委員) p 20 についてガス化溶融流動床式の運営費が一番低いことには感覚的に違和感がある。ストーカ式の数値は平均値を用いていることなど、補足が必要ではないか。

(濱田委員) 今回の各事業者からの見積金額の前提となっている仕様は確定したものではなく、事業者選定時には変わってくるので、あくまでも参考値であることを明記する必要がある。

(委員長) なお書きで追加することとする。

(二宮委員) p 3 の施設概要の処理能力には炉構成は入れなくてよいのか。

(事務局) メーカーからの回答は2炉構成であったので、2炉構成であることが分かるように記載する。

(伊藤委員) p 9 の流動床焼却炉についての記載として「近年の実績としては2件程度である」ことを強調して、評価対象から外したことをもっと強調してもいいのではないかと。

(委員長) 検討委員会報告書に関して、基本的な構成は事務局案のとおりでよいか。

(一同) 異議なし。

(伊藤委員) 委員の確認は、メーカー提出資料等も確認するのか。

(事務局) 修正した検討委員会報告書のみご確認いただく。

(二宮委員) p 17 の温暖化負荷は○△の評価はするのか。

(事務局) 評価をする。

(委員長) p 18 の電力使用量について、各処理方式の外部資源化の数値を入れることができるのであれば評価を残す。数値を入れることができなければコメントを追加し評価は行わない。また、p 19 の燃料使用量についても同様の対応とする。

さらに、評価の前提が変わる場合には p 10 等に明示したほうがよいかもしれない。

(事務局) 評価に当たっては、既存文献等を参考に評価できるか検討する。

2. その他

(委員長) 本日の検討委員会での指摘事項を踏まえ修正した検討委員会報告書の素案は、検討委員会を開催せずに事務局から各委員にメールで送付し、送付後1週間で確認いただき、検討委員会報告書として取りまとめるということによろしいか。

(一同) 異議なし。

(事務局) 本日の議事録も、検討委員会報告書と同様の取扱いとさせていただきたいがどうか。

(一同) 異議なし。